

ダイワ・スイス高配当株ツインα (毎月分配型)

<5638>

追加型投信／海外／株式
日経新聞掲載名：ス高配株ツα

第113期	2023年7月18日決算	第116期	2023年10月17日決算
第114期	2023年8月17日決算	第117期	2023年11月17日決算
第115期	2023年9月19日決算	第118期	2023年12月18日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、配当利回りの高いスイス株式へ投資するとともに、オプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、高水準のインカム性収益の確保と信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第118期末	基準価額	5,383円
	純資産総額	8,544百万円
第113期～第118期	騰落率	0.5%
	分配金合計	240円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00(営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

◇TKU0563820231218◇

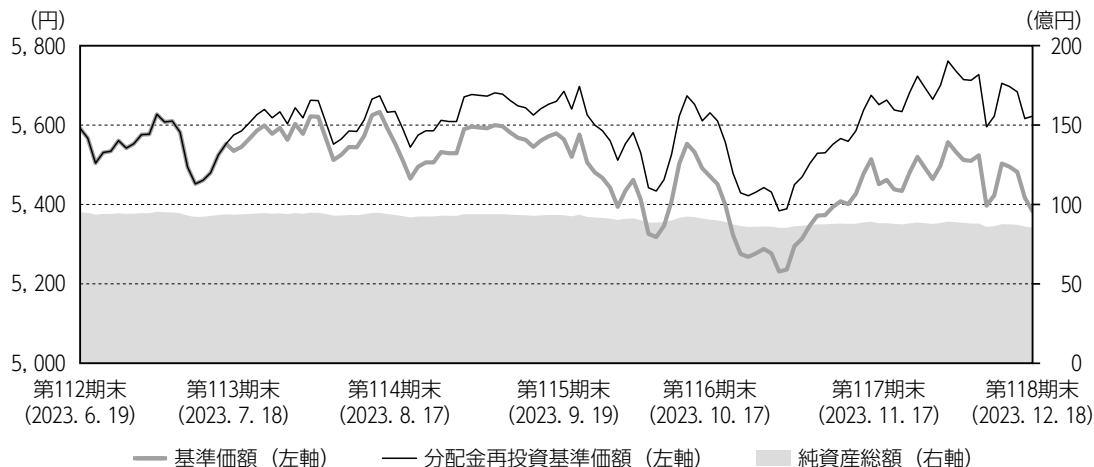
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります (分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

第113期首：5,592円

第118期末：5,383円 (既払分配金240円)

騰落率：0.5% (分配金再投資ベース)

基準価額の変動要因

当ファンドが保有するスイス株式の株価の上昇や、スイス・フランが対円で上昇 (円安) したことなどがプラス要因となり、基準価額は上昇しました (分配金再投資ベース)。オプション取引については、通貨オプションと株価指数オプションは共にマイナス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

1 万口当りの費用の明細

項 目	第113期～第118期 (2023. 6. 20～2023. 12. 18)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	37円	0. 669%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は5, 493円です。
（投信会社）	(12)	(0. 218)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販売会社）	(24)	(0. 437)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(1)	(0. 013)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0. 003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	37	0. 672	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

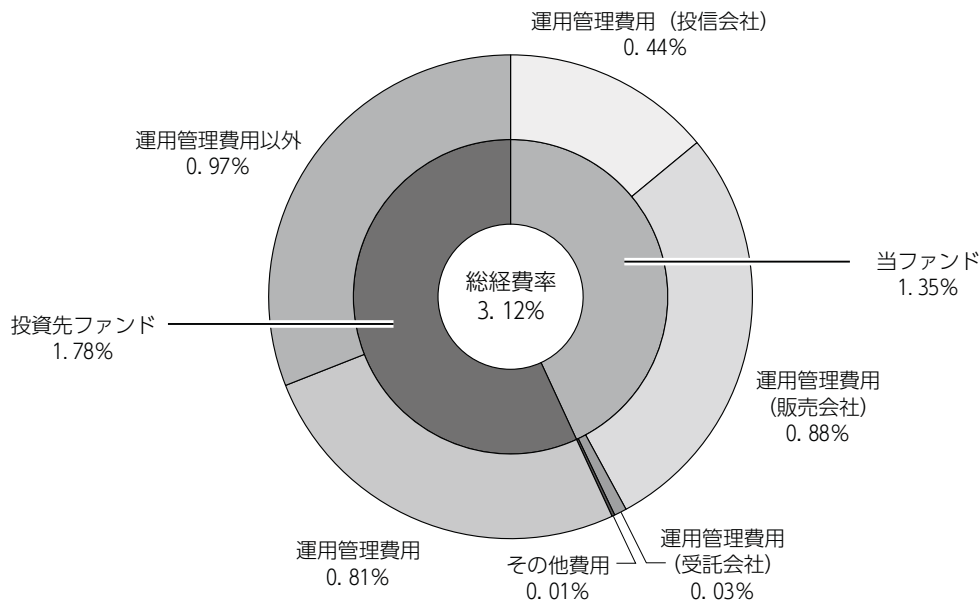
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は3.12%です。



総経費率（① + ② + ③）	3.12%
①当ファンドの費用の比率	1.35%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.81%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.97%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

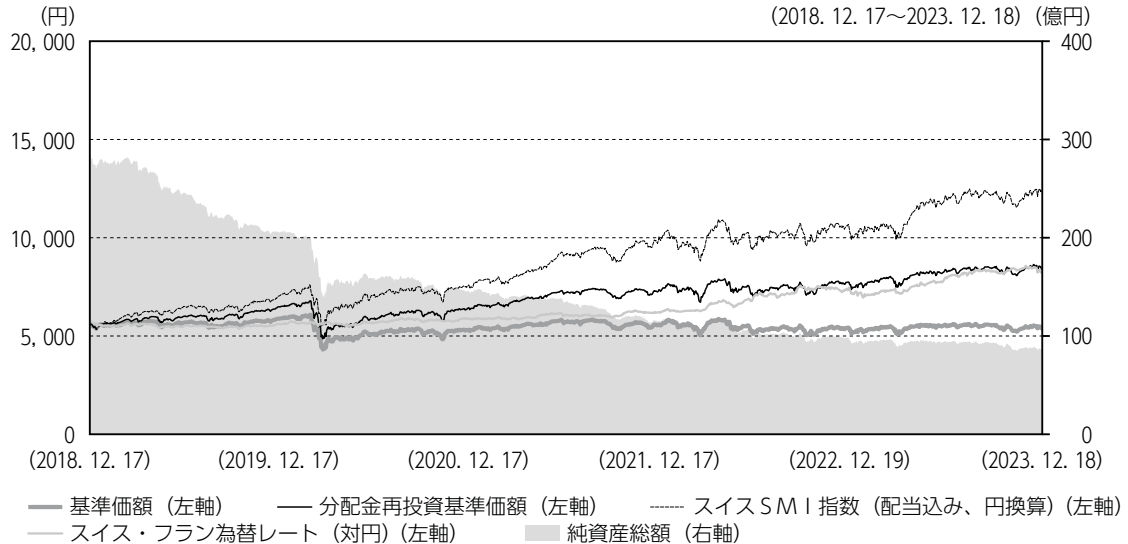
(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、2018年12月17日の基準価額をもとに指数化したものです。

*参考指数は、スイスSMI指数（配当込み、円換算）およびスイス・フラン為替レート（対円）です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

	2018年12月17日 期初	2019年12月17日 決算日	2020年12月17日 決算日	2021年12月17日 決算日	2022年12月19日 決算日	2023年12月18日 決算日
基準価額 (円)	5,731	5,886	5,312	5,600	5,297	5,383
期間分配金合計（税込み） (円)	—	550	480	480	480	480
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	13.2	△1.0	14.8	3.3	10.9
スイスSMI指数（配当込み、円換算）騰落率 (%)	—	22.5	7.6	33.4	2.1	19.9
スイス・フラン為替レート（対円）騰落率 (%)	—	△2.0	4.8	6.0	17.9	11.9
純資産総額 (百万円)	28,716	20,646	14,586	11,586	9,552	8,544

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) スイスSMI指数（配当込み、円換算）は、スイスSMI指数（配当込み、スイス・フランベース）をもとに、大和アセットマネジメントが円換算したものです。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 為替レートは、計算日における対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートを採用しています。

(注5) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

投資環境について

（2023. 6. 20 ~ 2023. 12. 18）

■ スイス株式市況

スイス株式市況は下落しました。

当作成期首より、根強いインフレ圧力を抑制するためにS N B（スイス国立銀行）が追加利上げを決定したことを嫌気し、スイス株式市場は下落して始まりました。その後、米国の底堅い景気動向などに下支えされた米国株式市場の上昇に追随してスイス株式市場も反発に転じる局面もありましたが、欧米金利の上昇や中東情勢の緊迫化などを背景に、2023年10月下旬にかけて軟調な展開が続き、当作成期末にかけては、F R B（米国連邦準備制度理事会）が2024年に利下げを開始する可能性を示唆したことや、S N Bが12月の政策決定会合で政策金利を据え置いたことなどを好感し、株価は上昇基調で推移しました。

■ スイス株価指数オプション市況

期間1カ月アット・ザ・マネーのインプライド・ボラティリティ（予想変動率）は低下しました。

当作成期首より、欧米金利の上昇などを背景にスイス株式市場が軟調な値動きとなる中、インプライド・ボラティリティは上昇基調で推移しました。その後は、スイス株式市場が回復基調に転じたことなどが投資家心理の改善につながり、インプライド・ボラティリティは一時低下する局面もありましたが、2023年10月下旬にかけては、中東情勢の緊迫化を受けて投資家心理が悪化し、再び上昇しました。当作成期末にかけては、E C B（欧州中央銀行）が政策金利を据え置いたことから投資家心理が改善し、インプライド・ボラティリティは低下基調で推移しました。

■ 為替相場

スイス・フランは対円で上昇しました。

当作成期首より、日本とスイス間の金利差拡大観測などを背景に、スイス・フランは円に対して上昇基調で推移しました。2023年9月下旬にかけては、S N B（スイス国立銀行）が市場の予想に反して政策金利の据え置きを決定するとともに、S N B高官が「様子見」局面に入ったと述べたことを受け、スイス・フランは上値の重い展開となりました。しかし10月上旬に、中東情勢の緊迫化を背景に市場でリスク回避姿勢が強まる中、永世中立国であるスイスを選好して安全資産としてスイス・フランを買う動きが強まり、スイス・フランは再び上昇基調に転じました。当作成期末にかけては、日銀による早期の金融緩和修正観測が高まった影響などから円高が進行し、スイス・フランは対円で上げ幅を縮小しました。

■ スイス・フラン／円為替オプション市況

期間1カ月アット・ザ・マネーのインプライド・ボラティリティ（予想変動率）は上昇しました。

当作成期首より2023年7月下旬にかけては、日銀の金融政策をめぐる思惑などからインプライド・ボラティリティは上昇しました。その後は、底堅いスイス・フランの動向などを背景に、11月中旬にかけてインプライド・ボラティリティは低下しました。当作成期末にかけては、急速な円高の進行などを受けて、インプライド・ボラティリティは再び上昇に転じました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■ 当ファンド

引き続き、「UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド」と「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」に投資します。通常の状態では、「UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド」への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■ UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド

スイス株式部分に関しては、企業の本源的価値が株価に十分に反映されておらず、投資妙味の高い銘柄に焦点を当てて投資を行います。スイス株式への投資に加えて、株式カバードコール戦略および通貨カバードコール戦略の活用により、オプションプレミアム（オプションの買い手が売り手に支払う対価）の確保をめざします。株式カバードコール戦略ではスイス株価指数のコール・オプション（買う権利）の売りを、通貨カバードコール戦略では円に対するスイス・フランのコール・オプションの売りをを行います。いずれのオプションも、カバー率をファンドが保有するスイス・フラン建資産の評価額に対して50%程度とすることにより、株式の値上がり益、スイス・フランの円に対する値上がり益の部分的な追求をめざします。

■ ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2023. 6. 20 ~ 2023. 12. 18)

■当ファンド

「UBS (CAY) スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド」と「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」に投資しました。「UBS (CAY) スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド」への投資割合を高位に維持しました。

■UBS (CAY) スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド

参考指数との対比では、セクター別では、金融セクターのオーバーウエートや、一般消費財・サービス、生活必需品セクターのアンダーウエートなどが主なプラス要因となりました。一方、情報技術セクター内の銘柄選択および同セクターのアンダーウエート、コミュニケーション・サービスセクターのオーバーウエート、不動産セクターのアンダーウエートなどが主なマイナス要因となりました。個別銘柄では、UBS Group、Givaudan、Adecco Groupのオーバーウエートのほか、Nestle、Compagnie Financiere Richemontのアンダーウエートなどが主なプラス要因となりました。一方、Lonza Group、SIG Groupのオーバーウエートなどが主なマイナス要因となりました。

スイス株式への投資に加えて、株式カバードコール戦略および通貨カバードコール戦略の活用により、オプションプレミアム（オプションの買い手が売り手に支払う対価）の確保をめざしました。株式カバードコール戦略ではスイス株価指数のコール・オプション（買う権利）の売りを、通貨カバードコール戦略では円に対するスイス・フランのコール・オプションの売りを行いました。いずれのオプションも、カバー率をファンドが保有するスイス・フラン建資産の評価額に対して50%程度とすることにより、株式の値上がり益、スイス・フランの円に対する値上がり益の部分的な追求をめざしました。

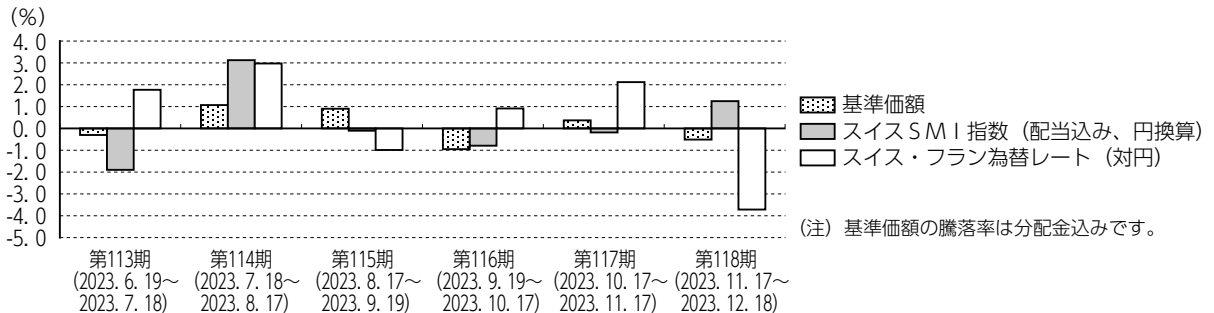
■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。当ファンドはカバードコール戦略を構築していますので、オプション取引要因は参考指数との差異の要因に含まれます。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期
	2023年6月20日 ～2023年7月18日	2023年7月19日 ～2023年8月17日	2023年8月18日 ～2023年9月19日	2023年9月20日 ～2023年10月17日	2023年10月18日 ～2023年11月17日	2023年11月18日 ～2023年12月18日
当期分配金(税込み) (円)	40	40	40	40	40	40
対基準価額比率 (%)	0.72	0.72	0.71	0.73	0.73	0.74
当期の収益 (円)	40	40	40	40	40	40
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	1,564	1,592	1,615	1,633	1,656	1,671

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 93.64円	✓ 67.87円	✓ 63.73円	✓ 57.76円	✓ 62.75円	✓ 54.59円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	214.75	217.03	219.39	222.55	224.96	227.00
(d) 分配準備積立金	1,295.89	1,347.26	1,372.78	1,393.39	1,408.76	1,429.48
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	1,604.29	1,632.17	1,655.91	1,673.71	1,696.48	1,711.07
(f) 分配金	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	1,564.29	1,592.17	1,615.91	1,633.71	1,656.48	1,671.07

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

引き続き、「UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド」と「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」に投資します。通常の状態では、「UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド」への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド

スイス株式部分に関しては、企業の本源的価値が株価に十分に反映されておらず、投資妙味の高い銘柄に焦点を当てて投資を行います。スイス株式への投資に加えて、株式カバードコール戦略および通貨カバードコール戦略の活用により、オプションプレミアム（オプションの買い手が売り手に支払う対価）の確保をめざします。株式カバードコール戦略ではスイス株価指数のコール・オプション（買う権利）の売りを、通貨カバードコール戦略では円に対するスイス・フランのコール・オプションの売りをを行います。いずれのオプションも、カバー率をファンドが保有するスイス・フラン建資産の評価額に対して50%程度とすることにより、株式の値上がり益、スイス・フランの円に対する値上がり益の部分的な追求をめざします。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

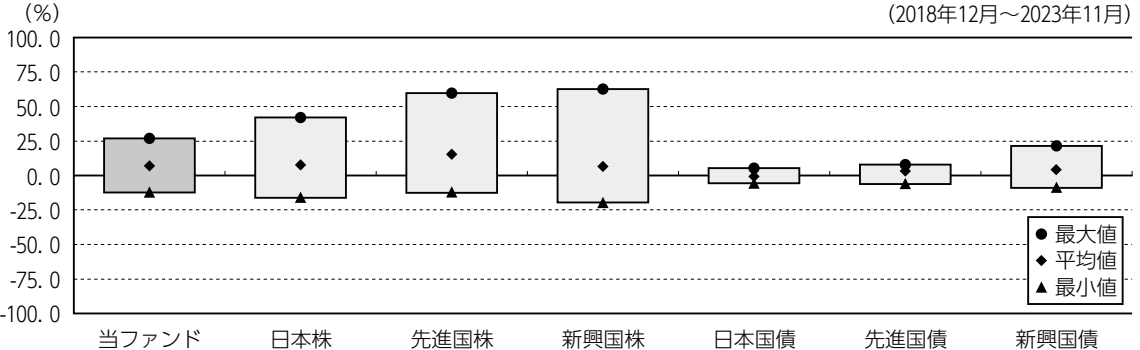


当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2013年12月18日～2028年12月15日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ、ケイマン籍の外国投資信託「UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド」の受益証券（円建） ロ、ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	<p>①主として、UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンドの受益証券を通じて、相対的に配当利回りの高いスイス株式への投資と株式および通貨のオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、高水準のインカム性収益の確保と信託財産の成長をめざします。</p> <p>②当ファンドは、UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンドとダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態では、UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンドへの投資割合を高位に維持することを基本とします。</p> <p>③UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンドでは、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
マザーファンドの運用方法	<p>①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。</p> <p>②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。</p>	
分配方針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。</p>	



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	27.0	42.1	59.8	62.7	5.4	8.0	21.5
平均値	7.1	7.6	15.4	6.6	△0.6	3.3	4.3
最小値	△12.2	△16.0	△12.4	△19.4	△5.5	△6.1	△8.8

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデクスーエマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる商標または高標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる商標または高標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるのではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>] ●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデクスーエマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



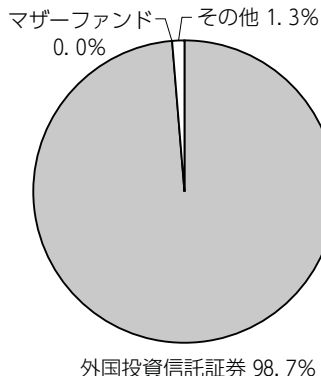
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

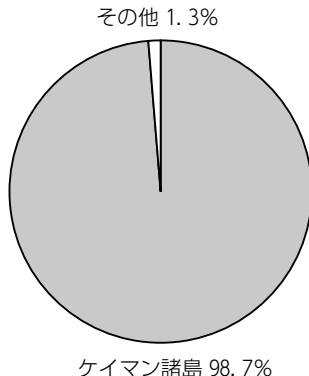
組入ファンド等

	比 率
UBS (CAY) スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド	98.7%
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	0.0
その他	1.3

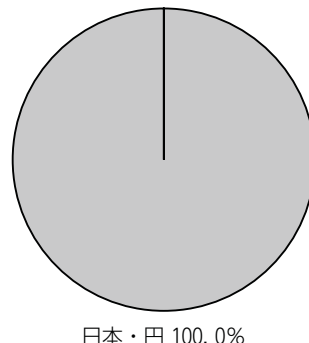
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2023年12月18日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

項 目	第113期末	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末	第118期末
	2023年7月18日	2023年8月17日	2023年9月19日	2023年10月17日	2023年11月17日	2023年12月18日
純資産総額	9,348,849,173円	9,333,661,318円	9,319,306,077円	9,038,486,789円	8,813,521,827円	8,544,069,212円
受益権総口数	16,890,962,170口	16,804,040,120口	16,749,445,133口	16,520,539,470口	16,168,208,391口	15,873,423,525口
1万円当り基準価額	5,535円	5,554円	5,564円	5,471円	5,451円	5,383円

* 当作成期間 (第113期~第118期) 中における追加設定元本額は171,507,581円、同解約元本額は1,289,293,342円です。

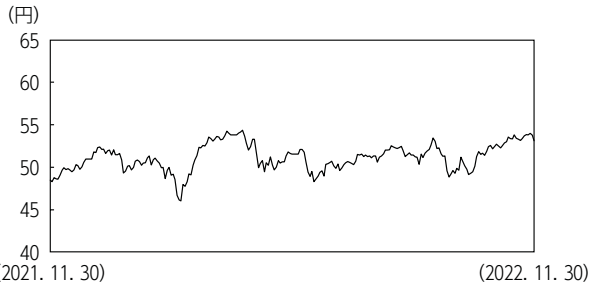
* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

◆UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド

（作成対象期間 2021年12月1日～2022年11月30日）※直近で入手可能な Financial Statements 作成期間です。

■1口当り評価額の推移



(注1) 1口当り評価額は、分配金を再投資したものとみなして計算しています。
 (注2) 国内の営業日の評価額を記載しています。

■1口当りの費用の明細

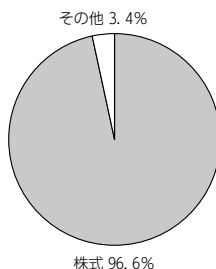
当ファンドの単位口数当りの費用のデータは取得できないため、記載しておりません。

■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
Novartis AG	スイス・フラン	9.6%
Nestle SA	スイス・フラン	9.3
Roche Holding AG	スイス・フラン	8.5
Zurich Insurance Group AG	スイス・フラン	8.1
UBS Group AG	スイス・フラン	8.0
ABB, Ltd.	スイス・フラン	5.5
Givaudan SA	スイス・フラン	4.6
Swiss Re AG	スイス・フラン	4.5
Lonza Group AG	スイス・フラン	3.4
Swisscom AG	スイス・フラン	3.1
組入銘柄数		33銘柄

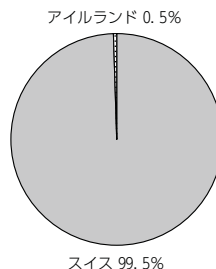
(注) 比率は純資産に対する比率です。

■資産別配分



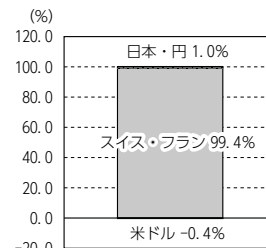
(注) 比率は純資産に対する比率です。

■国別配分



(注) 比率は株式に対する比率です。

■通貨別配分



(注) 比率は純資産に対する比率です。

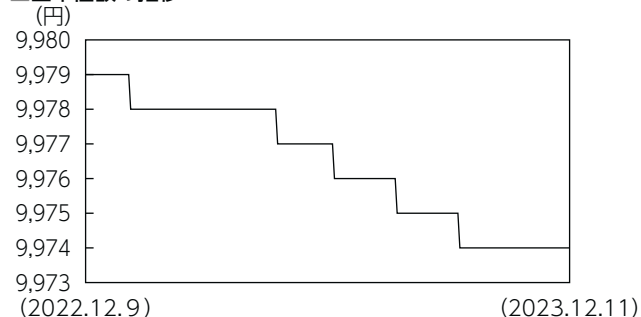
* 組入上位銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、作成対象期間末時点のデータです。

* 組入上位銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、「UBS（CAY）スイス・ハイ・ディビデンド・エクイティ・ツイン・アルファ・ファンド」の運用会社等からの情報提供をもとに作成したものであり、運用報告書（全体版）の情報とは異なる場合があります。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

◆ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（作成対象期間 2022年12月10日～2023年12月11日）

■基準価額の推移



■1万口当りの費用の明細

項	目	
売買委託手数料		-円
有価証券取引税		-
その他費用		-
合	計	-

■組入資産

2023年12月11日現在、有価証券等の組み入れはありません。

(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のもの。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。